

平成 19 年度最終報告書

2008 年 9 月 28 日

特定非営利活動法人ソムニード

事業名：クラフト講座による国際理解

活動の目的：

国民参加型での国際協力を目指しているソムニードは、海外での支援事業に加えて、国内でも地域づくりの支援や一般の人々への啓発活動、国際理解教育などを長年行ってきた。それらの国内事業は地域で認められ始めており、地元の学校や企業、行政と連携する機会も多くなってきた。活動の場が広がるにつれ分かってきた事は、一般の人々にとって国際協力は、「難しい」もので、「専門家が行う」もの、だということだ。真に国民参加型での国際協力を行いたいならば、私たちの側が一般の人に歩み寄る必要性があるのではないかと考えている。

そこで今回実施したのが、「クラフト講座による国際理解」である。新しい国際理解教育のかたち作りを目指した試みで、一般に国際理解教育というと、途上国の現実を写真や資料で紹介する授業や講義形式が多いが、本事業では、創造教育に国際理解教育を融合させたものを作り上げようとした。具体的には、インドの自然素材を使ったクラフト講座の形を作り上げようとした。参加者には手作業によるものづくりを楽しんでもらいつつ、インドの素材に直接触れてインドにも親しんでもらう。自然素材は、ソムニード支援地域の貧困層の人々が準備したものを使用し、講座のなかで無理なく彼らの事が紹介できるようにした。

活動の内容と方法：

創造教育と国際理解教育を融合した講座を形成していくために、講座内で制作するクラフト作品自体と、制作以外の導入やまとめ、講座全体の流れに仕掛けや工夫を施した。クラフトは国際協力に関心のない層を引きつけ、国際協力への入り口として利用するには便利なツールだ。しかし、一度制作を始めると熱中してしまっ、融合させたはずの国際理解教育についての学びが頭から消えてしまいやすくなる。そこで国際理解教育の専門家とともに、講座という限られた時間の中でどうやってクラフトと国際理解教育の学びを結び付けていくのか、工夫を凝らした。加えて、制作するクラフト自体も、インドの自然素材を活かした誰でも簡単に楽しめる物とするために、手工芸専門家とともに研究を重ねた。試作のクラフト講座を作り上げては実際に試し、改良を加えていった。講座は合計 21 回実施し、のべ 969 人が参加した。また、期間中に作り上げたクラフト講座は 8 種類で、事業終盤にはクラフト講座の内容をまとめた小冊子を作成し、クラフト講座に関心のある関係者に配布した。

日本でクラフト講座の内容を構築していく一方、素材仕入れ先のインドでは、都市スラムや農村部の女性グループとともに自然素材を調達した。自然素材の収集、選別、加工、袋詰め、日本への輸送など、インドの自然素材を日本へ持ってくる際に必要となる作業全てを、こちらの指示がなくても女性グループが自分たちで主体的に動いてまとめる事ができるようになる事を目指した。また、自然素材調達に参加することで、彼女たちの収入が向上するようになる仕組み作りも行った。その為事業開始当初より、事業の目的や内容を常に女性グループと情報共有し、作業を行う場合はソムニード単独で行うことは避けて、常に

女性グループと一緒にやるように心がけた。本事業では年間3回、合計約38kg、20種類の自然素材を調達した。

実施経過：

年月日／実施場所	実施内容
2007年5月上旬	クラフト講座の教材開発を始める。
2007年5月23日～6月1日	担当者インド出張。講座で使用する自然素材を、インド・都市スラムの女性たち及び農村部女性グループとともに準備する。バナナの茎、はぎれ、タマリンドの殻などの自然素材を調達する。また、自然素材調達がスラムや村の女性たちの収入向上につながるよう、彼女たちと本事業内容について話し合い、情報共有を行った。
2007年6月24日 岐阜県高山市	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ「インドのはげ山にみんなの力で木を植えよう」 参加者／約25名（子ども〔幼児～小学校低学年〕と、その親が中心） ・ワークショップ「枝でアート」 ※森林たくみ塾との共同開催。国際協力と地域の環境保護の連携ワークショップ 参加者／約70名（子ども〔幼児～小学校低学年〕と、その親が中心）
2007年8月4～5日 岐阜県高山市	<p>ワークショップ「ココナツの殻でアクセサリ作り」 参加者／147名（子ども〔幼児～小学校低学年〕と、その親が中心）</p>
2007年8月8日 愛知県名古屋市	クラフト講座に関して、国際理解教育専門家の（特活）NIED・国際理解教育センター・山中令子氏に相談する。クラフト作成と国際理解教育のつなげ方や、グループワークの進め方、クラフト講座の見せ方などについてアドバイスをもらう。
2007年8月11～12日 岐阜県岐阜市	<p>ワークショップ「マイ・ジャングルブック作り」 参加者／12名（子ども〔幼児～小学校低学年〕と、その親が中心）</p>
2007年7月16日～8月12日 岐阜県岐阜市	設置型ワークショップ「インドのはげ山にみんなの力で木を植えよう」
2007年8月18日 愛知県名古屋市	<p>ワークショップ「インドのはげ山にみんなの力で木を植えよう」 参加者／約250人（子どもから年配の方まで、幅広く参加）</p>
2007年8月19日 岐阜県高山市	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ「マイ・ジャングルブック作り」 参加者／20人（子ども〔幼児～小学校低学年〕と、その親が中心） ・設置型ワークショップ「インドのはげ山にみんなの力で木を植えよう」 参加者／約60人（子どもから年配の方まで、幅広く参加） ・ワークショップ「インドの素材を使った万華鏡講座」 ※赤かぶの会との共同開催 参加者／27人（子ども〔幼児～小学校低学年〕と、その親が中心）
2007年8月31日	スラム及び村の女性グループを通じて、インドの自然素材を調達する。約2kg、4種類の自然素材が日本へ届く。
2007年9月15日 愛知県犬山市	<p>グループワークショップ「みんなでインドの貼り絵を作ろう！」 ※犬山市子ども大学と共同開催 参加者／35人（小学校低学年～高学年）</p>

2007年10月13日 岐阜県岐阜市	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ「幸せを呼ぶランゴリーを作ろう！」 参加者/28人(子ども[幼児~小学校低学年]と、その親が中心) ・設置型ワークショップ「インドのはげ山にみんなの力で木を植えよう」 参加者/約20人(子どもから年配の方まで、幅広く参加)
2007年11月10日~11月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・インド出張。約30kg、17種類の自然素材をスラムや村の女性グループとともに、日本へ輸送できるように収集、加工、袋詰めを行う。また、クラフト講座に必要な自然素材やインドに関する資料を収集したり、写真を撮影したりする。 ・9月15日のワークショップで犬山市の子どもたちが自然素材を使用して作成したインドの貼り絵を、自然素材の収集元である村の小学校へ届ける。村の子どもたちから聞いた感想は後日、犬山の子どもたちに届けた。
2007年12月8日 岐阜県岐阜市	<p>ワークショップ「マイ・ジャングルブック作り」</p> <p>※土曜会との共同開催</p> <p>参加者/約25人(30~50代の男性中心)</p>
2007年12月8日	NIEDファシリテーター講座参加。クラフト講座を国際理解教育への入り口とするための、ファシリテーション技術を習得する。
2008年1月27日 岐阜県高山市	<p>ワークショップ「幸せを呼ぶランゴリーを作ろう！」</p> <p>参加者/31人(子ども[幼児~小学校低学年]と、その親が中心)</p>
2008年1月27日	草彩染専門家・成田ケイ氏より、クラフトの制作方法及び紙への色染め方法を習う。
2008年2月9、10日 岐阜県高山市	<p>ワークショップ「インドと日本を結ぶエコロジーARTを作ろう」</p> <p>参加者/約15人(成人女性中心)</p>
2008年2月15日	スラム及び村の女性グループを通じて、インドの自然素材を調達する。約6kg、4種類の自然素材が日本へ届く。
2008年2月17日 岐阜県岐阜市	<p>ワークショップ「インドと日本を結ぶエコロジーARTを作ろう」</p> <p>参加者/20人(成人女性中心)</p>
2008年2月21、22日	クラフト講座研究のため、専門店調査。一般化されているクラフトキットの値段やパッケージ、一般客に人気のある手工芸の傾向などを調査する。
2008年3月23日 岐阜県高山市	<p>ワークショップ「インドと日本を結ぶエコロジーARTを作ろう」</p> <p>参加者/約30人(子ども[幼児~小学校低学年]と、その親が中心)</p>
2008年3月31日	小冊子「グローバルクラフトで広がる世界~クラフト講座による国際理解教育、環境教育~」を作成(300部)。クラフト講座に関心のある関係者へ配布する。
2008年4月12日 岐阜県岐阜市	<p>ワークショップ「インドの自然素材で染めた和紙でART作り」</p> <p>参加者/1人(60代男性)</p>
2008年5月4、5日 岐阜県高山市	<p>ワークショップ「インドと日本を結ぶエコロジーARTを作ろう」</p> <p>参加者/19人(子ども[幼児~小学校低学年]と、その親が中心)</p>
2008年7月14~20日 スペイン・サラゴサ市 サラゴサ万博内	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ「森の恵みでARTを作ろう【スペイン版】」 参加者/34人(子ども[幼児~小学校低学年]と、その親が中心) ・簡易ワークショップ「森の恵みでARTを作ろう【スペイン版】」 参加者/約100人(子どもから年配の方まで、幅広く参加)

活動の成果：

- ・クラフト講座終了後の参加者は、講義形式の国際理解教育を行った場合と比較して、明るい表情や元気な状態になって帰っていく人が多い。クラフトを制作する事で、頭だけでなく手や体なども使うため、体の五感を上手に使えているからではないだろうか。また、隣同士知らない人でも、クラフトで使うハサミやボンドなどの道具の貸し借り等で自然と会話が生まれ、講座が終了する頃には親しげな雰囲気が生まれている事が多い。この事も参加者が明るく元気になって帰っていく事と関係しているのではないだろうか。
- ・国際理解の学びをうまく講座に結び付けられた場合、持ち帰ったクラフト作品を家で少しでも見返せば、講座で学んだことを思い出すことができる。講義型の場合は講座の時間のみが学びの時間となりがちであるが、作品が残るクラフト講座は講座終了後も学びにつなげることができる。
- ・国際協力に関心のない一般の人々に参加してもらえた他、今まで協働した事のないような異分野 NPO との協働も実現した。具体的には環境教育を行っている NPO、障害児への音楽療法を行っている NPO と共同でクラフト講座を実施した。お互い自分達の本業にプラスアルファの付加価値を付けることができ、どちらも喜ぶ講座となった。
- ・ソムニードの活動や国際協力活動を一般に広めたいと思いつつも自分には難しくて伝えることができない、もしくは、伝え方が分からないと思っていたボランティアスタッフが、クラフト講座という形を利用する事で、人に国際協力について伝える第一歩を踏み出すことができるようになった。クラフト講座を利用する事は、講座で教える側にとっても国際理解教育への入り口となりやすい事が分かった。
- ・自然素材調達元であるインドでは、都市スラムや農村部の女性グループを事業のパートナーとして一緒に素材調達を行ってきた。女性グループが主体的に自然素材調達を取りまとめていけるようになることを目指して活動していたが、こうした取り組みにより、都市スラム女性グループ内にクラフト事業を取りまとめるリーダーが生まれ、都市スラム女性グループに自然素材調達を依頼すると、彼女たちから農村部女性グループに連絡が入って、両グループが連携して自然素材調達を行うという動きが生まれた。
- ・日本の子供たちがインドの自然素材を使って、インドの事を学びながらクラフトを行う。そして制作した作品を素材調達元であるインドの小学校に贈る。インドの子供たちの感想を再び日本の子供たちに届ける。という形での、双方向の交流を実施することができた。インドの子供たちは自分たちの身近な素材がクラフトになること、そして日本の子供たちが素材を使って作品を作ったことが新鮮な驚きと興味の対象となり、日本の子供たちにとっても、自分たちが時間をかけて制作した作品が、素材のふるさとに住む子供たちの手に届いて感想が帰ってきて、とてもうれしいという感想が寄せられた。

今後の課題：

- ・クラフト講座で使用する自然素材の量はそれほど多くなく、インドの女性グループの収入向上につながるほどたくさんの自然素材を日本で利用できるようになるまでには、まだ時間が必要である。
- ・子ども向けのクラフト講座は何種類か開発できたが、大人向けの講座はあまり作り上げることができなかった。ぱっとみた感じが子ども向けだと大人は参加しないので、大人を呼び込める、大人向けのクラフト講座を開発しなければならない。
- ・国際理解への入門的クラフト講座は開発できたが、その次のステップ、更に深い内容が学べるクラフト講座も開発していく必要がある。対象やレベルに応じて、何種類かの講座から選んで利用できるようになる事が大切だと思っている。
- ・インドの自然素材を使ったクラフト講座だったため、どうしても国際理解教育の学びはインドの話が中

心になってしまっている。しかし、クラフト講座を他の NGO、NPO 団体が利用できるようにするためには、「インドの話」を発展させて、「世界の課題の話」が学べるように持って行かなくてはならないと思う。

これからの予定：

- ・ソムニード担当者以外のボランティア、外部協力者が、国際理解教育を伝えるツールとしてクラフト講座を気軽に利用できるように、講座全体のパッケージをさらに明確で分かりやすいものに改良を加えていきたい。
- ・上記のようにクラフト講座の開催回数や参加者人数を増やして、インドからの自然素材調達を増やしていきたい。自然素材調達が都市スラムや農村部女性グループの収入向上につながっていくよう、日本とインドで自然素材が回る仕組みを構築していく予定だ。

参考資料：写真による事業報告

①インドでの自然素材調達の様子



本事業について説明するソムニード担当者と、話を聞く女性グループメンバー



自然素材の試作品を見る農村部女性グループリーダー



自然素材の収集について意見交換するソムニード担当者とスラム女性グループメンバー



収集した自然素材を乾燥させる



ゴミ等の不要物を取り除く



形や大きさを揃える



選別、加工等が終わった素材は、計量して少量ずつ袋詰めする。



梱包して日本へ送る

②日本でのクラフト講座の様子

②-1 グループワークショップ「みんなでインドの貼り絵を作ろう！」



導入：インドの森と村の暮らしについて紹介する



制作：5～6人のグループに分かれて、画用紙にインドの自然素材を貼り付けて貼り絵を制作していく



完成作品（インドの神様、ガネーシャの絵）



制作した貼り絵を素材調達元の、インドの村の小学校に届ける。子供たちに日本の子供が作った貼り絵をプレゼント。

②-2 ワークショップ「森の恵みでARTを作ろう【スペイン版】」



導入：紙芝居でインドの森林伐採と森林再生にまつわる話を伝える



制作：自然素材と動物スタンプを使って、ハガキサイズのミニARTを作る



完成作品



まとめ：苗木シールに感想を書いて、はげ山に貼る

